

区分	評価指標	H27実績	H28実績	H29実績	前年度比	図書館運営全体
図書館運営	基本的サービス					自己評価
	資料購入費:決算数値(千円)	12,500	11,027	10,195	0.92	<ul style="list-style-type: none"> 貸出点数は前年度比3%減少。 登録者数は増加しているが、新規登録者は14%減少。 入館者数は前年度比20%減少。 ラジオ、広報紙等で周知に努めているが地域住民への周知が徹底されていない状態と言える。
	蔵書点数(点):図書・AV	163,036	167,495	171,171	1.02	
	個人の貸出点数(点):雑誌・AV含む	352,585	354,559	345,248	0.97	
	個人の登録者数(人)	11,033	11,838	12,631	1.07	
	(内新規登録者数)	20,563	1,555	1,345	0.86	
	入館者数(人)	184,717	180,591	144,682	0.80	
					外部評価	
						<ul style="list-style-type: none"> インターネットなどの普及で図書館を利用しない人も増えていると思われる。そんな中では、ある程度評価できる。 近隣の図書館を利用する人も多く聞いて納得した。良さはそれぞれなので、使い分けているが新津は新津の住民ニーズを考えて特色を出していくのが良いと思う。 今後も広報活動に力を入れて欲しい。 社会の状況、メディアの発展等があり、単純に数の増減だけでは評価できない。 入館者数について、年齢や男女の傾向が少しでも解析できると実感がイメージしやすいのではないだろうか。 入館者の減少の原因は周知できていないと自己評価にあるが、そう思う。ラジオを聞かない、新聞を取っていない人は広報紙を見ないので、図書館の情報は摂れないと思う。SNSや対象を絞ったチラシなどの配布も行うべきだと思う。来館が減ったり、新規が増えないなら本を買う予算を割いても広報費に回すべきだと思う。市民の血税で運営されているので多くの方に利用していただけるようにすることは重要だと思う。 定着した人数になってきていると思われる。しかし、地域住民への周知徹底がされていないことが原因としたらもう少しピーアールの必要がある。 全体的に見られる減少傾向を食い止めることは今後の大きな課題である。どのような広報の在り方が効果的なのか、市内に限らず県内や他県で効果を上げている図書館の取り組みに学ぶことも必要である。

区分	評価指標	H27実績	H28実績	H29目標	H29実績	自己評点	H30目標	評価(次年度への展開)	
施策・事業(各図書館)	ネットワークを生かした「課題解決型図書館」							自己評価	
	レファレンス件数(件) ※資料の所蔵調査を含む	2,616	11,705	12,000	10,625	1	12,000	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス件数は目標値に達しなかったが、郷土、児童関係の調査・相談件数が微増となった。 予約件数は目標値を達成。しかし、欲しい資料が棚に無い場合も考えられるので、検証が必要である。 新津図書館は中央、坂井輪図書館と同様に相互貸借が多い。利用者の需要を慎重に見定める必要がある。 	
	個人予約件数(件)	55,000	61,825	62,000	63,407	3	64,000		
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	—	—	—	—	—	—		
	特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」								自己評価
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	15,730	15,963	16,100	16,427	3	16,500	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書冊数を増やすことができた。 貸出冊数は減少したが、調査・相談件数は増加している。 区役所とも連携し課題解決にあたる場面も見受けられるようになってきた。 	
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	3,436	3,259	3,500	2,943	1	3,500		
	職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進以外の派遣	—	3	3	0	1	—		
	公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進以外の事業	—	0	—	—	—	—		
	子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」								自己評価
	児童書の貸出冊数(冊)	93,686	95,127	96,000	92,695	1	93,000	<ul style="list-style-type: none"> 児童の貸出冊数は2.5%減少。 事業の参加者数が平成27年度とほぼ同数となっている。本来の数値になったということと考えられる。 職場体験は申し込みされた件数をそのまま受け入れることができた。 	
	小・中・高等学校への団体貸出冊数(冊)	5,119	4,209	4,500	4,181	1	4,300		
	子ども・親子対象事業の参加者数(延人数)	3,068	3,282	3,300	3,071	1	3,000		
	職場体験受入人数(人)	5	7	8	9	3	—		
	職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進に関わる派遣	2	1	2	3	2	2		
	公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進に関わる事業	2	0	—	—	—	—		
	市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」								自己評価
	図書館ボランティア活動者数(延人数)	644	556	600	516	1	550	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ、主催事業、配架ボランティアが活動しているが、参加者数は減少している。 全体では前年度比6.5%の減少であるが、特に配架ボランティアは19.5%減少となっている。 	
	ボランティア団体交流会参加者数(延人数)	6	0	5	5	2	6		
	利用者の意見を把握する機会の設定(回)	2	2	3	2	2	3		
共催・協働事業の実施件数(件)	14	17	20	15	1	18			
効率的・効果的な運営(職員)								自己評価	
研修参加職員数(延人数)	26	57	60	61	3	24	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比以上に職員を各種研修に派遣することができた。専門研修も実施することができ、利用者へのサービスに活用している。 		
								外部評価	
								<ul style="list-style-type: none"> 研修してスキルアップを図るのは大事なことだと思う。 図書館の財産は職員の専門知識と経験であると思う。 研修参加については評価するが、30年度の目標数値が低いのはなぜか。 需要者のニーズも年々多様化し、多方面化してきていると思うので、専門知識の習得は大いに期待する。 平成30年度の目標数値が低いように感じる。 利用者へのサービスに活用されていることは評価できる。 職員のスキルアップなくして図書館業務の充実や利用者へのサービス向上は無い。その点から、研修実績の向上は大いに評価したい。 	

※「自己評点」欄の数値について …… 3:目標値を上回って達成 2:目標どおり達成 1:目標値を下回った

※「自己評点」欄の数値について …… 3:目標値を上回って達成 2:目標どおり達成 1:目標値を下回った